

市長所信表明

【はじめに】

本日、令和2年第8回江田島市議会定例会を招集しましたところ、議員各位の御出席を頂き、開会の運びとなりましたことに対し、感謝とお礼を申し上げます。

去る11月1日に告示されました市長選挙におきまして、無投票当選での再選を頂き、引き続き、江田島市長として、市政運営を担うこととなりました。

市民の皆様を始め、議員の皆様方の御支援と御協力に、改めて感謝を申し上げます。

今後も、人口は減少傾向のまま推移し、また、令和6年度には、市町村合併による有利な起債制度が終了することが見込まれております。

これからの4年間は、市の経営環境が厳しさを増す中であって、私たちの子や孫、その先の将来を担う世代のために、持続可能で、明るい未来を描くことが可能な江田島市を築くという、大変重要な舵取りが必要となります。

このような時期に、市政を担うリーダーに求められる責務は非常に大きいものがあると痛感しており、責任の重さと大きさに身が引き締まる思いでございます。

それとともに、愛する郷土のため、全力を投じて「住む人も、訪れる人も『ワクワクできる島』えたじま」づくりに邁進する決意を、新たにしているところでございます。

本定例会は、市長再任後、初めての市議会でございますので、冒頭の貴重なお時間を頂きまして、今後の市政運営につきまして、私の所信の一端を申し上げます。

さて、現在の状況を鑑みますに、新型コロナウイルス感染症が世界中でまん延し、収束の気配が見えておりません。

市政における喫緊の課題は、こうした状況下における市民の皆様「暮らしの安心の確保」と「経済の活力づくり」でございます。

まずは、何よりも、このことを最優先の課題として取り組んでまいります。

私の第1期の市政を振り返ってみますと、平成30年7月豪雨による災害、そして、令和となって、新型コロナウイルス感染症と、2つの非常事態に見舞われました。

これまでの4年間は、市民の皆様、に、日常の暮らしを取り戻していただくことに心を砕いた日々であったように思います。

しかしながら、私が市長に就任した平成28年12月に、24,662人であった本市の人口は、令和2年12月には、22,396人と、実に2,266人の減少となりました。

少し長いスパンで振り返りますと、戦後初めての国勢調査が行われた昭和22年、今から73年前の本市の人口は63,560人でした。

ここをピークに人口は一貫して減り続けており、近年は、概ね年間500人を超えて減少している状況にあります。

人口減少は、地域の将来の持続性を揺るがす根幹的な課題でございます。

このため、豪雨災害や疫病のまん延という非常事態への対応を図りつつ、人口減少の改善を図り、未来に向けた基盤を築くため、

- ・企業誘致やオリーブ振興などの産業振興
- ・通学定期補助や病児病後児保育の開始などの子育て支援
- ・えたじマイレージポイントや健康診査の受診勧奨などの健康づくり
- ・保育施設、消防庁舎、交流プラザなどの公共施設の再編整備
- ・江田島市国際交流協会の設立

などに取り組んでまいりました。

この結果、平成25年度から実施している市民満足度調査では、満足度ポイントの平均値が毎年上昇しております。

私が市長に就任した年である平成28年度は55.2ポイントでございました。

本年度は56.3ポイントと、1.1ポイントアップしております。

しかしながら、人口は減少傾向の改善に至ることはできず、また、財政の健全性を図る指標のひとつである経常収支比率は、平成28年度の92.6%から、令和元年度は98.3%まで悪化いたしました。

私の第2期におきましては、第1期の良いところは継続・改善を図り、省みるべきところは省みながら、市政運営を図ってまいります。

【基本方針】

それでは、私の市政運営における、その決意と考え方を申し上げます。

私は、市政を運営する基本的な姿勢として、引き続き、「熱意・誠意・創意」を胸に、物事に取り組んでまいります。

熱意のないところには何も生まれません。誠実という心がないと信頼は生まれません。創意を図らないと、今日より明日へと前進することができません。

「熱意・誠意・創意」は、人が何かを成し遂げるために欠かせないという考え方は、第1期から変わっておりません。

この思いをもって、「住む人も、訪れる人も『ワクワクできる島』えたじま」づくりに、引き続き取り組んでまいります。

次に、「『ワクワクできる島』えたじま」についてでございます。

私は、「ワクワクできる島」を、「住む人が元気で、活発に活動し、それが訪れた方にも伝わり、ともに心が明るく楽しい気持ちになるようなまち」と、その姿を思い描いております。

こうしたイメージを共有しつつ、議員の皆様、市民の皆様も、地域づくりの主体として、一緒になって、ワクワクできるまちづくりに、それこそ、ワクワクしながら取り組んでいきたい。

このように強く強く念じているところでございます。

なお、本市における最大の課題は、やはり人口減少でございます。

日本全体が人口減少期を迎え、少子高齢化が進展する中でまちづくりを進めているところでございます。

今一度、地域づくりの本質に立ち返って、人口減少下にあっても、全ての市民が夢を持ち、生きがいを感じることができるまちを目指すことが重要と考えます。

第1期の所信表明でも申し上げたとおり、人口減少は、「生まれてくる子供より、亡くなる方の数が多いこと」、「市内へ転入される方より、就職などを契機として、市外へ転出される方が多いこと」により生じるものでございます。

このため、引き続き、①市内へ「しごと」を創り出すこと、②若い世代の方が子育てしやすい環境をつくること、③健康寿命を延ばすこと、この3つを、これからも江田島市の重要なテーマとして、まちづくりを進めてまいりたいと考えております。

次に、今後の主な取組項目でございます。

一つ目として、「災害に強いまちづくり」でございます。

平成30年7月豪雨の教訓を生かし、災害に強いまちづくりを進めるとともに、新型コロナウイルス感染症への対策に力を尽くしてまいります。

二つ目として、「新ホテルの整備」でございます。

長瀬海岸周辺に建設中の新ホテルの整備に併せ、駐車場の整備、旧能美海上ロッジの解体など、周辺環境の充実を図ってまいります。

三つ目として、「市の魅力アップに向けた取組」でございます。

「えたじまものがたり博覧会」の実施など、観光戦略チーム「一步」が中心となった体験型観光コンテンツの開発に取り組んでまいります。

また、「協働のまちづくり地域提案型活動支援補助金」などによる、市民が主体となって取り組むまちづくり活動の促進や、本市の広報大使であるSTU48の矢野帆夏さんの御協力を得た本市のPR活動にも取り組んでまいります。

四つ目として、「公共施設の再編整備」でございます。

地元のまちづくり協議会等と協議を進め、まちづくりの活動拠点としての施設整備を進めてまいります。

五つ目として、「遊休施設の処分・活用」でございます。

統廃合等により未利用となっている市有地や施設への企業誘致、処分・活用に努めてまいります。

なお、本件に関連いたしまして、東京都に本社のあるバレットグループ株式会社の開発部門が、本市の能美市民センターに進出することが決定いたしました。

【終わりに】

以上、市政運営につきまして、私の所信を申し述べさせていただきました。

議員各位並びに市民の皆様におかれましては、私の江田島市に対する思いをお汲み取り頂き、これまで同様に、市政運営に関しまして格段の御理解、御協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げ、第2期の江田島市長就任の所信表明といたします。